

「百舌鳥・古市古墳群」暫定一覧表骨子（案）

1. 名称：「百舌鳥・古市古墳群」

2. 所在地：大阪府

3. 概要

ア) 3世紀後半～6世紀末の日本列島では、古墳の規模・形態・意匠に当時の政治・社会の構造及び地域的關係が明示されるという独特の文化的伝統が形成された。この時代は、古墳が社会における政治的な身分秩序を表していた時代として「古墳時代」と呼ばれている。

イ) 古墳は規模・形態・意匠の面において多様であるが、前方後円墳が常にもっとも上位の墳形であり、中でも巨大前方後円墳は近畿地方を中心に分布し、この地域が古墳時代における中核であったと考えられている。

ウ) 百舌鳥・古市古墳群は4世紀後半～6世紀前半にわたる、日本最大の面積・規模の古墳を含む古墳群である。百舌鳥古墳群には世界最大の面積を誇る仁徳天皇陵古墳や、日本第3位の規模である履中天皇陵古墳が含まれ、古市古墳群でも日本第2位の規模である応神天皇陵古墳が含まれるなど、他の古墳群と比較して傑出した位置を占める。

エ) 百舌鳥・古市古墳群の特徴は巨大な前方後円墳だけでなく、中・小型の古墳も数多く含まれるなど古墳群そのものに階層構造が認められ、古墳群が当時の政治的構造を示す代表例である点があげられる。

オ) 当時の日本列島では、古墳に関する造営技術及び葬送儀礼に関する規範を共有していたと考えられ、百舌鳥・古市古墳群は5世紀代におけるそのような規範の発信源となることにより、九州から東北南部の各地域において百舌鳥・古市古墳群の縮小版というべき古墳群が築造されるにいたった。

カ) 古墳時代の東アジアは国際的な緊張関係が高まり、5世紀の中国の文献には倭国王が使を送り、冊封を受けた記事も認められる。この時期は古墳の巨大化が頂点を迎えた時期であり、その頂点に位置する百舌鳥・古市古墳群からは、東アジアとの交流によってもたらされた副葬品が出土している。

7世紀以降、日本でも中国を模範とする古代国家が成立し、古墳時代は終焉を告げる。古墳のありようは東アジアの政治・社会情勢に深く関連し、日本の古代国家形成過程を示している。

キ) このように、百舌鳥・古市古墳群は日本の古代国家形成過程を示す巨大記念工作物であるとともに、古墳群の構造そのものが当時の社会構造を反映する独特の文化的伝統の物証であり、列島各地における文化的伝統のあり方および価値観の交流を表す顕著な事例である。百舌鳥・古市古墳群は、世界各地における古代国家形成期の巨大記念工作物に比肩しうる。したがって、本資産は人類共通の普遍的価値を持つ。

4. 顕著な普遍的価値の根拠

ア) 3世紀後半～6世紀末の日本列島には、前方後円墳を頂点とする古墳が、基本構造に共通性を持ちつつも、その規模と形態によって階層性を示し、強力な政治的意味を持つ記念工作物として築造され、これらの古墳の規模・形態・意匠に当時の政治・社会の構造・関係を反映するという独特の文化的伝統が形成された。

百舌鳥・古市古墳群は、墳墓の面積では世界最大の仁徳天皇陵古墳をはじめ日本最大の一群の古墳を含み、この文化的伝統を反映する代表的な事例である。

百舌鳥・古市古墳群は世界のいくつかの地域で古代国家形成期に築造された他の巨大記念工作物にも比肩し得る資産と位置付けられる。

以上の点から、本資産は顕著な普遍的価値を持ち、世界遺産一覧表の調和と代表性を確実にする上で意義のある資産である。

5. 適用が考えられる基準

(ii) 3世紀後半～6世紀末の古墳時代のうち、4世紀後半から6世紀前半に日本の各地において造営された数多の古墳群は、百舌鳥・古市古墳群を模範として築造され、この時代の古墳造営に関わる規範が形成される上で重要な基礎を成した。

したがって、百舌鳥・古市古墳群は、この時代の日本列島における首長層の古墳造営に係る価値観の交流を表している。

(iii) 4世紀後半～6世紀前半の百舌鳥・古市古墳群は、古墳の巨大化の頂点に位置し、巨大古墳の周囲に中小の多様な古墳を配置することで政治的・社会的支配の実態を反映する独特の文化的伝統がこの時代の日本列島に存在したことを明示している。

したがって、百舌鳥・古市古墳群は、この時代の古墳造営に関わる文化的伝統の類い希なる物証である。

(iv) 百舌鳥・古市古墳群は、3世紀後半～6世紀末の日本の国家形成過程における首長層の政治権力を背景として造営された巨大記念工作物である。それは、世界最大の面積を誇る仁徳天皇陵古墳のみならず、前方後円墳、円墳・方墳など多様な規模・形態・意匠を持つ一群の古墳を含む。

したがって、百舌鳥・古市古墳群は、3世紀後半～6世紀末における日本の政治・社会構造を反映する古墳群の中でも傑出した存在であり、典型的・代表的な事例である。

6. 真実性・完全性

ア) 百舌鳥・古市古墳群は、古墳についての考古学的研究や文献史料によって、古墳の築造年代や当時の文化の特徴が明らかにされるとともに、各古墳の墳丘が良好な状態で保存され、その真実性は十分に保持されている。

イ) 百舌鳥・古市古墳群は、5世紀代の日本各地の古墳の模範となった巨大古墳及び中・小規模の古墳の典型例が含まれており、資産の完全性は十分に保持されている。

7. 類似資産との比較

ア) 世界遺産に登録された大規模な王墓群と比較し、百舌鳥・古市古墳群は、

① 墳丘の面積で世界最大の墳墓を含む古墳群である。

② 巨大古墳以外にも中・小規模の古墳が数多く含まれ、古代国家形成期における社会構造を反映している。

③ 今なお墓所としての静安と尊厳が保持されているといった特質を持つ。